

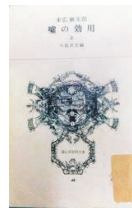


「オススメ」  
**教員から  
 学生への  
 推薦図書**  
 Recommend  
 books

学生みなさんに読んでほしい一冊を、大学の蔵書の中から紹介していただきました。学生時代に会った本や、息抜きに読める本などさまざま。ぜひ図書館で探してみてくださいはいかがでしょうか。

01

嘘の効用



(写真は富山房百科文庫版の上巻)

いずたろう  
 末広 巖太郎 (著)  
 (改造社)1922

(外)外部書庫1 320.4:Su16  
 名図開架 #320.8:47.4  
 (日本評論社版)

法院開架 320.4:Su16:1-2  
 (富山房百科文庫版)ほか

末広 巖太郎(1881-1951)は日本の法学界の立役者的存在で、平易な言葉で書かれた彼の著作集は珠玉の法学入門書だ。中でも『嘘の効用』は古典的名著。一見硬直している法律の世界であっても、裁判所は人のためあえて“嘘”をつく必要があると説く。大岡裁きはその典型。無論ここで“嘘”とは反倫理的な虚偽のことではなく、法解釈における技術的レトリックのこと。末広は云う。「人間は公平を好む。法治主義はこの要求から生まれた制度です。法治主義とは法律という物差しを作っておく主義です。ところが元来物差しは固定的なるを以て本質とするものです。…もしも、法律の物差しが少しも伸縮しない絶対的固定的なものであったとすれば、(逆に人はそのような)杓子定規を憎むものです。」ゆえに「法則性を以て伸縮する物差し」が大切なのだ、と。法学以外の全ての人が読んで、きっと「目から鱗」に違いない。



名古屋校舎  
 長峯 信彦  
 法学部

02

知的生産の技術



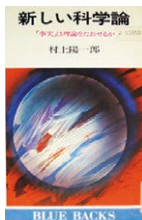
梅棹 忠夫 (著)  
 (岩波新書)1969

名図文庫 080:1952:b722  
 豊図書庫 #081.6:2:415 ほか

梅棹忠夫『知的生産の技術』(岩波新書F93)は、1969年に初版が発行されて以来、たちまちベストセラーになった個人情報処理の入門書で、梅棹氏が考案した京大式カードによるデータベースの構築を中心とした、効率的な情報処理のテクニックが体系的に紹介されている。本書が提唱する技法は、IT化された最新の情報技術と比べれば、古色蒼然としたローテクのアナログ技術であるが、人間の知的活動の基本は今でもやはり自分の頭脳を用いたアナログ情報処理である。2010年には本書の第84刷が増刷されており、息の長い名著である。筆者は学部学生時代に本書に出あって感銘を受けたが、今日の学生にも一度は手にしてもらいたい書物である。

03

新しい科学論



村上 陽一郎 (著)  
 (講談社)1979

豊図書庫 #401:116  
 (外)名図書庫 401:Mu43

人を説得するときにはいろんな説得方法がある。占いを信じる人もいれば、情に訴えられると納得する人もいる。はたまた科学的に納得するということもある。では、そもそも科学的な説得とはどういうことだろうか。数式で語ること？数字で語ること？データで語ること？いやいや、科学はそんなに簡単でも単純でもなく、非常に面白く味わい深いものであるということを知ってほしい本である。データを積み上げるだけでは科学的な説得とはいえないとか、はたまた地動説のガリレオは科学者とはいえないとか、科学に興味のある人はもちろん、是非、私がそうだったように超文系の学生にも読んで欲しい一冊である。

04

ゴシック建築とスコラ学



アーウィン・パノフスキー (著)  
 前川 道郎訳  
 (平凡社)1987

豊図開架 523.045:P21  
 名図開架 523.045:P21 (文庫版)

ゴシック建築といえば、例えばパリのノートルダム寺院。スコラ学といえば、トマス・アクィナス。これらの単語は、なかなか肌にしみこんでこないものです。それが「ゴシック建築とスコラ学」とつながれば尚更のこと。しかしこの本の主眼は、個別の事象ではなく、それを作り上げた考え方に着目するところにあります。一つの物事を、部分に分け、分析し、それを再度組み上げる。建築であれば部材を組み上げて一つの建物とする。文献であれば、語句をつぶさに検証していった書物全体の意味を描く。その考え方が極めて似ているというのです。このような分析は、ジャンルに閉じた思考ではできないことでした。パノフスキーの力量、読んで楽しめます。



名古屋校舎  
 森 久男  
 経済学部



名古屋校舎  
 太田 幸治  
 経営学部



名古屋校舎  
 木島 史雄  
 現代中国学部

05



## 世界の夢の図書館

(エクスナレッジ)2014

名図開架 010.2:Se22  
豊図開架 010.2:Se22

本書は伝統から最新まで、「世界最高峰」の図書館37館を写真付きで紹介したものです。「過去から現在、そして未来へ、人間の知をつなぐ場所」である図書館の数々の写真を見ると、何かしら得るところがあるはず。それから、紹介されている多くの図書館には館内ツアーがあり、一般の見学者にも門戸が開かれていますから、もし機会があれば、実際に訪れて知的伝統の空間に身を置いてみたいものです。そういえば、昨年の歌舞伎座新開場の折、当代尾上菊五郎が「ハコは出来てもまだ匂いもない。我々がこれから使いこんでいくことで、劇場のカラーができてくんだ。」というようなことを語っていました。たしかに、建物も最初は「ハコ」でしかなく、それを活かすも殺すも使う次第。世界の伝統ある図書館に比べれば、愛大の図書館はまだまだこれからの「新品」。だからこそ、私たちの使い方ひとつで、愛大ならではの「人間の知をつなぐ場所」を創っていきけるのではないかと、そんなことも考えさせてくれる一冊です。

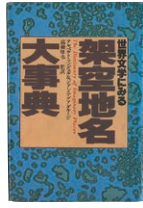
### 名古屋校舎

塩山 正純

国際コミュニケーション学部



06



## 世界文学にみる 架空地名大事典

アルベルト マンゲル・ジャン・グアルービ(著)  
高橋康也(監訳)  
(講談社)1984

豊図参考 #903.3:11  
名図参考 903.3:Ma43(完訳版)ほか

図書館には「読む本」のほかに、「引く本」があります。辞書、事典、書誌などです。

これらは、ググってもわからないことを系統的に調べることができます。このほかにも『架空人名辞典』(豊図参考 #903.3:14 (欧米編) 903.3:Ky4 (日本編) ほか) や『世界の妖精・妖怪事典』(豊図参考 388.033:R72) など、思いがけない事典があります。

「引く」には、電子版のほうが便利なのも多いのですが、紙の辞書には重要な利点があります。言葉を打ち込まなくて、ページをバラバラすることで読めることです。事典を読んでみてください。

そして、この事典に載っている土地へ行ってみたいと思ったら、旅行会社に行く必要はありません。図書館の書架に行ってみてください。

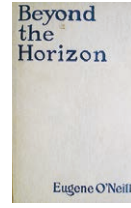
### 豊橋校舎

山本 昭

文学部



07



## Beyond the Horizon

邦題：地平線の彼方

Eugene G. O'Neill (著)  
(New York: Boni and Liveright)  
1920

豊図書庫 E380.6:77

私は文学部英文科に入学した。小説を読むことが好きだったわけではない。ただ英語が深く学びたかった。私は遅読派で、トルストイの長編など読もうとも思わなかった。そんななか、授業でアメリカの作家ユージーン・オニールを読むことになった。その作品名は *Beyond the Horizon* である。これは彼の初期の短い劇作で、授業で簡単に読み切った。そして、私は戯曲を読む魅力に憑りつかれてしまった。戯曲は短く読みやすかった。さらに、戯曲は劇場で楽しむこともできる。大学生のあいだに、私はオニールの作品をほとんど読破した。英語でも4.5冊読んだ。近代劇を読み漁った。その後に来るのが不条理演劇だ。当時は学生運動が盛んだったところで、自分に揺れていた私にとって、この掴みどころのない演劇の世界は、自分そのものだった。

### 豊橋校舎

早川 勇

地域政策学部



08



## 若き日の 詩人たちの肖像

堀田 善衛(著)  
(新潮社)1968

豊図書庫 #913.6:H2:1ii  
豊図書庫 918.68:H96:7  
(堀田善衛全集)

(写真は本扉)

昨年、福永武彦「死の島」を推薦しましたが、今回は福永の盟友・堀田善衛の、戦時下の青春を描いたこの本を推薦します。堀田は、アニメーション作家宮崎駿の尊敬する作家で、司馬遼太郎を交えた鼎談も本になっています。昨年のアニメ「風立ちぬ」で、宮崎が堀辰雄を引用したことに胸に落ちる気持ちがあったのも、脚本・絵コンテを担当した前作「コクリコ坂から」のヒロインの名前/あだ名と、父親の出身学校の設定に、海/merを結びつけた三好達治と、高等商船学校学生であった丸山薫という、詩誌「四季」の二詩人の濃厚な気配が感じられたからで、堀辰雄こそ三好・丸山とともに「四季」を主宰した、堀田・福永らにとって師匠格の人物でした(ちなみに丸山薫は本学教授でした)。本作には堀が「成宗の先生」として——福永も「日伊協会の詩人」として——登場。暗い時代を生き抜こうとする人々の交流が心を打ちます。

### 豊橋校舎

安 智史

短期大学部



09



## おとなの進路教室。

山田スーニー(著)  
(河出書房新社)2012

豊図開架 I59:Y19

「人はなぜ働かなければならないのですか。これが分からないから就活をするモチベーションがわかないです・・・」。これは、2年前、OBを招いてゼミの三年生向けに就活懇談会を実施したとき、あるゼミ生が当惑気味に発した質問です。「就職希望者」が集まる会合で、まさかこんな根源的な疑問が出てくるとは・・・とOBも私も苦笑しましたが、一方で、この疑問は重大で捨て置けないと感じた私が、その学生に読むように勧めたのがこの本です。この本は、哲学書でも就活指南本でもありませんが、自分の進路を切り拓こうとする人、それはこれから社会に出ようとしている学生だけでなく、自分らしく生きるために自分の立ち位置を転換したいとがいてる全ての年代の人に、考える視点と前に進む力を与えてくれる、心にリアルに響く本です。ちなみに、この本を読んだ当該学生は無事納得のいく就職ができました。この本の効果でしょうか。

### 車道校舎

久須本 かおり

法科大学院



10



## 文学部唯野教授

筒井 康隆(著)  
(岩波書店)1990

名図開架 913.6:Ts93

筒井康隆(1934年9月24日生)は、小松左京、星新一と並んでSF御三家と称されてパロディやスラップスティックな笑いを得意とし、初期の作品はナンセンス、ブラックユーモアな代表作に「くたばれPTA」(1966)(名図開架 918.68:Ts93:3)がある。途中、純文学の分野に進出した時もあった。

『文学部唯野教授』は「大学」と「文学」という二つの制度＝権力に挑んだ主人公・唯野仁の大学生活をパロディ化し、大学の実態を筆者の勝手な想像で描いている。

作品の文芸批評が文学から社会学にも及び、大学の授業内容を揶揄しながら作品当時の大学に対する筆者の想いに興味が注がれる作品でもあり、是非一読されることをお勧めします。

### 車道校舎

林 隆一

会計大学院

